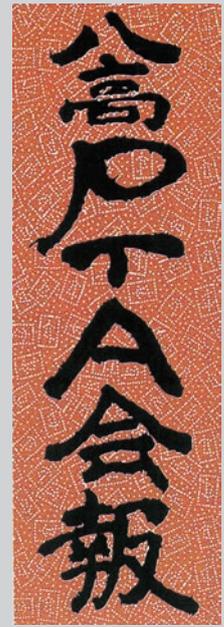




7月13日(火)

校内球技大会



編集発行
愛媛県立八幡浜高等学校
PTA広報委員会

..... 八幡浜高校芸術発表会

八高サマーフェスタ 2021

6月19日(土)



聖流ブロック長 井上 稔教



僕たち三年生は、新型コロナウイルス感染症拡大のため修学旅行などの楽しみを奪われました。そんな中の高校生活最後の体育祭。練習の制限で苦しい時が多々ありましたが無事最後までやり遂げることができました。

僕はブロック長として全体をまとめなければならぬ立場でほかのリーダーと協力しながら総合優勝に導きました。一、二年生のみならず総じて体育祭を行って、すぐ見ていてうれしかったです。一位聖流と呼ばれた時は今までの練習が一瞬にしてフラッシュバックし、今までで最高のうれしさを感じました。今も余韻に浸っています。これからはしっかりと切り替えて大学受験に励みたいと思います。



柏皇ブロック長 河野 千尋

競技の部ではとても強い団結力で優勝することができましたが、全体としてはとても悔しい結果でした。でも納得のできる結果ではありません。感染症対策による制限の中で、できることはしました。結果はこうでも、とても素晴らしいものを作り上げることができました。ブロックの皆には、こんな結果になったことに申し訳ないですが、最後まで共に戦ってくれたことに感謝しています。本当にありがとうございます！みんな磨けば光る素晴らしいものをもっていきます。今回で自信をなくしたりすることなく、さらに磨いて輝いてください。





八翔ブロック長 尾下 望

私たち八翔ブロックは楽しむことをモットーに、毎日練習に励みました。感染症対策で制限がかけられる中、学年の垣根を超えた絆と一人一人の個性を最大限発揮することができました。総合優勝には届きませんでした。八翔ブロックみんなが、それぞれ自分のベストを尽くせたと思うので何も悔いはありません。準備期間中、大変なこともありましたが、八翔ブロックのみんなが支えてくれたおかげで、充実した日々を過ごせました。今年の八翔に、一、二年生はなぐてはならないかけがえのない存在です。楽しくて面白くて個性豊かな最高の八翔のメンバーに出会えて、本当によかったです。ありがとうございます。



九月四日、曇りの予報が嘘のような秋晴れの中、第七十三回八幡浜高校体育祭が開催されました。感染症の影響で無観客、競技数を減らすなど制限の多い中で、次々とホームページに掲載される写真に見える笑顔、我が家まで届く子どもたちの歓声は、いつもの年と変わらない八高生らしい輝きに満ちていました。娘のブロックは三年生が一年クラスのブロックでしたが、準備は終始なごやかに和気藹々と進んだようでした。ブロック長として練習中に気分の悪い子はいないか、ケガをした子はいないかと気にかけている様子を見て、いつの間にかこんなことまで気がつくようになったのだらうと我が子の成長を感じました。体育祭が近づくとつれ、娘は応援や仮装・装飾・衣装に取り組む仲間たちの素晴らしさを、目を輝かせて語ってくれました。後日端末に公開された応援合戦の動画は、どのブロックも統一された美しい動きに迫力のある声が響き、このために毎日必死で練習してきたことが伝わってきました。娘のブロックは、総合優勝を飾ることはできませんでしたが、帰宅した娘は思っていたよりずっと満足そうな表情をしていました。我慢することが多かった高校生活。娘たちのこれからが明るく前向きなものであるよう、応援していきたいと思えます。

最後になりましたが、一人の感染者を出すこともなく、無事に体育祭を開催できたのは、ひとえに先生方の細かな配慮によるものだと思います。娘を支え、見守ってくださいました皆様に心から感謝いたします。ありがとうございます。

「頑張れ、八高生!!」
保護者 尾下 有美



ありがとう

陸上競技部
保護者 藤田 麻衣

コロナ禍の中、思い描いていた先輩との全国の夢は消え、息子の代になり、タイムが伸びる一方で怪我に悩まされ、辛い想いも沢山した日々。家では一切弱音を吐かない息子が総体当日肉離れ。個人種目を諦めることになり、車の後部座席で涙する姿に、何も言えず、何もしてやれず、とても悔しかったです。

その後、「リレーで皆と全国に行く!」と切り替えて結果を出した四国三位。掴んだ全国への切符。「努力は実を結ぶ」と「努力しても報われないこともある」ことの両方を経験し、たくましくなった息子の姿を見ました。努力したことは決して無駄ではなく、きっとこれから進む道への糧となるでしょう。



数十秒の中にいつも感動をありがとう。最高に輝いていた息子を誇りに思います。八幡浜高校陸上部の仲間と、いつも支えてくださった先生方に、心から感謝いたします。

ネバーギブアップ

女子テニス部
保護者 岡 さおり

中学の総体で納得のできる成績が残せなかった娘が「もう誰にも負けたくない!」そう言って選んだのは、硬式テニス部でした。「ネバーギブアップ・アンド・ステイポジティブ」新田先生の教え通りどんなに追い込まれた時でも笑顔忘れず最後までボールを追い続ける。そんなプレーを先輩方には、たくさん見せてもらいました。

このチームでの総体を楽しみにしていた矢先のコロナ禍。先輩方の果たせなかった思いを引き継いだ新チーム。「テニスができる事に感謝しよう」そんな思いを胸に迎えた最後の総体では、粘りのプレーでタイブレークを二回制した娘。無観客のため応援に行き事はできませんでしたが、結果を聞いた時にはくたくたになりながらも最後までボールを追いかけた姿を想い涙があふれてきました。

ここまで心技体共に成長できたのは、熱心にご指導くださった先生、とても優しく一人きりの新入部員を迎え入れてくれた先輩方、頼もしい後輩たちのおかげです。三年間本当にありがとうございました。



弓道から得たもの

男子弓道部
保護者 谷 和代

昨年はコロナウイルス感染症の影響で高校総体がまさかの中止。今までの練習の成果を発揮する場所を奪われた高校生の悔しさは計り知れないものがあつただろうと胸を痛めました。そんな先輩方の思いを引き継ぎ、部長として絶対に結果を残すに強く決意した息子。

弓道の試合会場の雰囲気は何とも言えない緊張感があります。的にあたったときの拍手で賞賛。声を出しての応援はできません。静けさの中



で的にあてるのは相当な集中力、精神力が必要だと観ていると感じました。日々練習を積み重ね、的にあたらず悩みながらもプレッシャーに打ち勝つ努力をしてきました。先輩方が引退して初めて挑んだ選抜大会。団体戦で県二位、四国大会ベスト8という素晴らしい成績を残すことができました。弓道から得た沢山の学びがこれからの人生において財産になることでしょう。三年間ご指導いただいた先生方、OBの指導の方、先輩方、応援してくれた後輩たち、切磋琢磨した仲間、保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

コロナ禍の一年を振り返って

水泳部
保護者 宮中 容子



コロナ禍の状況が未だ収まらず、昨年の総体中止から一年が経過しました。今年はどうなるのかハラハラしながら迎えた総体。水泳部は、無観客での開催が決まり、会場へ応援に行けず、二年前の総体応援時のあの熱気と歓声ももう一度味わいたいという思いがあり、実に残念でしたが、県総体、四国総体、共にYouTubeライブ配信をしていただいたおかげで競技観戦をすることができました。

息子は、今年最後の高校総体でインターハイ出場を目標に、限られた環境の中で今やるべきことを考え行動していました。コロナ禍で目標への思いが途切れそうな心境になるときもありました。それでも、自分自身と戦って毎日自分の心に勝とうとしていました。

四国総体で選手宣誓の大役を任せられ宣誓した言葉は「練習や大会に制限が多く我慢の一年を過ごしてきましたが、昨年の先輩方はこの舞台に立つチャンスさえ与えられずに、納得がいかないまま引退していきました。この四国総体の開催・出場は決して当たり前ではありません。様々なことに感謝し、先輩たちの思いも乗せて泳ぎます。」と、挑戦することができなかった先輩方への思いから出た言葉でした。

例年なら表彰台上がる三位までの選手がインターハイに出場できますが、今年は条件が厳しく一位もしくは標準記録突破者のみ。真剣に競泳と向き合い、0.01秒でも速くなるための努力を積み重ねて挑んだレースは自己ベストではありませんでした。一位との差は0.06秒で二位。出場の夢は叶いませんでしたが、宣誓した思いと泳ぎは先輩方へ届いたと思いま

戦い

柔道部
保護者 西川 和美

このコロナ禍での経験を得たからこそ、感じられた思いがある。技術面だけでなく人間性の成長にも繋がった濃い一年でした。最後にになりましたが、ご指導くださいました先生方、コーチ、そして温かいお言葉で応援してくださった保護者の方々に感謝申し上げます。

保育園から始めた柔道。高校になって当たり前のように入部した柔道部。コロナ禍で大会が中止になったり、無観客試合になったりで試合を観戦できず、毎日残念な日々を送り、汗でずっしりと重たくなった柔道着を洗濯する時に、練習の激しさや努力を感じ、会話で技の成長を感じる日々を過ごしてきました。

今年の県総体は一年半ぶりに観戦できました。声援すらできない観戦ですが、心の中はあふれ出すほどの応援をし、ストイックな減量をして臨んだ試合。戦う姿の勇ましさに感動しました。いつも共に汗を流し切磋琢磨してきた仲間たちや顧問の村佐先生、

柔道を通じて出会えた全ての皆様に感謝しています。当たり前だった事が当たり前を過ぎておぼろげな日があることを願っています。八高柔道部をこれからも応援しています。



感謝

剣道部
保護者 廉田千栄子

も道着・防具を身に付けた厳しい練習も頑張ることができたと思います。忙しい日々の中、先輩や仲間と一緒に楽しく充実した時間を過ごし、コロナ禍で試合等少なかったのですが、最後の県総体までやりきることができました。剣道を続けて学んだことは、これからの人生の中で大きな自信と力になってくれると思います。少ない部員しかいない中、一緒に汗を流してください。くださったOBの方々、優しくご指導くださった顧問の先生、そして三年間子どもたちに剣道を教えてくださった馬詰先生、本当にありがとうございました。

八高に入学して、小学校の時にしていた剣道部に入りました。剣道部に入った同級生はみんな小学生の頃から剣道を知っている人たち。よく知っている仲間だからこそ暑い夏



PTA 理事

令和3年度 Parent・Teacher・Association 役員

Table with 2 columns: 地区名, 氏名. Lists PTA members by region including 江戸岡, 大黒町・新町・本町, etc.

Table with 2 columns: 地区名, 氏名. Lists PTA members by region including 喜須来, 宮内, etc.

Table with 3 columns: 役職, 氏名, 地区名. Lists PTA officers and their regions including PTA顧問, PTA会長, etc.

(敬称略)

7月14日(水) PTA理事会 (専門委員会)



清水会長を中心とした3役8名と各地区より選出された31名の理事、先生方で5つの専門委員会を組織しています。

コロナ感染症により、制限が多い状況が続いていますが、下記の各専門委員長・副委員長さんを中心に「PTAとしてできること」を実践していきます。御協力よろしくお願ひいたします。

Table listing five committees: 校外生活指導委員会, 研修・人権教育委員会, 広報委員会, 厚生保健委員会, 学年委員会, with their respective chair and vice-chair members.

四国大会出場

四国大会に出場して

男子ソフトテニス部 三年 清水 大輔

私たちは「四国総体出場」を目標に掲げ、先生方の熱いご指導の下、日々練習に取り組みできました。新チームになって初の公式戦で県大会団体三位に入賞することができました。メンタルの在り方が大きく試合の結果を左右することを痛感しました。

全国大会出場

全国大会を経験して

ビジネス部 三年 楠本 七菜

全国大会に出場でき、初めは一人ということもあってとても緊張していましたが、前日練習で会場に入ってから、しかし、前日練習で会場に入ってから、しかし、前日練習で会場に入ってから、

ライバルは上位二校の私立高校です。そのために、私たちは多くの練習試合を重ね、メンタル、技術共にバランスよく力を付けることができました。

最後の県総体では、チーム目標にしていた「四国総体出場」を果たし、県団体の全公式戦を三位でコンプリートすることができました。私たちが男子ソフトテニス部は、この貴重な経験を今後それぞれの舞台に生かし、さらなる飛躍の足掛かりにします。八幡浜高校の名を四国に刻むことができたことを誇りに思います。私たちが支えてくださった方々に感謝します。ありがとうございました。



毎日約一時間という短い時間ですが、一人で黙々と打ち続けました。その結果、パソコンをほとんど触ったことがなかった私がここまで成長できました。私にとっても飽き性で何事も始めてはすぐに辞めてしまっていたことができません。そんな自分に嫌気がさすほどです。だから、小さなことですが、ここまで続けるという経験ができてよかったと思います。ビジネス部に入って得たタイピングの技術がこれから先少しでも自分の役に立つことを思うと、少しだけ嬉しいですね。何より両親に感謝です。ありがとうございました。後輩の皆さんも頑張ってください。応援しています。

高校生活最後のインターハイ

陸上競技部 三年 吉良 龍星

私にとって最後のインターハイは福井県で開催されました。個人では、走り幅跳び、団体では一六〇〇mリレーに出場しました。一年生の時、この一六〇〇mリレーで先輩方と一緒にインターハイに出場することができました。この大会での表彰式の様子を見て、「来年は走り幅跳びで優勝する」という目標を明確に掲げることができました。

しかし、新型コロナウイルスの影響により、二年生の時は、インターハイだけでなく、県総体も開催されず中止となりました。目標を失いかけても、陸上をやめたいという気持ちにもなりませんでした。そのような状況の中、陸上競技部の仲間や身近で支えてくれた人たちのおかげ



で、「インターハイ優勝の目標を再び掲げ、一から練習を頑張ることができました。私は人からビックリマウスと言われることがありましたが、ブレlessnessに強いほうではなく、大会当日もかなり心臓がバクバクしていました。結果は、三位と、優勝という目標は叶いませんでしたが、価値のある三位だと今は感じています。この入賞は、支えてくださった先生・家族・そしてチームメイトのおかげだと、とても感謝しています。

最後の全国大会に出場して

水泳部 三年 中岡亜依香

私は、「全国大会で決勝に残る」という目標を掲げて、全国ジュニアオリンピックの一〇〇m・二〇〇mバタフライに出場しました。二〇〇mバタフライは県総体、インターハイでベストタイムを更新していたこともあり自信がありました。また、九月に開催予定であった三重国体の中止が決定し、この大会がラストレースとなることを実感

して私には、今まで以上にやる気が湧いてきました。迎えた当日、二〇〇mバタフライの予選は最終組の三組でした。二組までのレースが終わり、電光掲示板のタイムを確認すると、私の持ちタイムよりはるかに速い人が確実に五人いることが確認できました。決勝に残れるのは八人です。一気に緊張感が増しましたが、楽しんで泳ごうと気持ちを切り替えました。そして、スタート。前半の一〇〇mは余裕を持って泳ぐことができた。後半に自信があった私は、決勝に残るという強い気持ちで無我夢中で泳ぎました。ゴールして電光掲示板を確認すると、持ちタイムよりも一秒以上速いタイムが表示されました。全体で四位のタイムで決勝に進出することができたのです。決勝のレースでは、タイムも順位も落としてしまいましたが、人生で初めて全国大会入賞という目標

を達成することができました。このように最後のレースで自分の納得のいく泳ぎ、結果を残すことができたのは、指導していただいた先生、所属クラブのコーチ、支えてくれた家族、共に練習してきた仲間たちのおかげだと思っております。私はこのレースで引退しましたが、水泳を通して学んだことやこれまで培ってきた経験を様々な場面で生かしていきたいと思っております。



わかやま総文祭

言葉の広大な受容性

文芸・新聞部 三年 河野 冬愛

八月四、五日の二日間、紀の国わかやま総文芸文芸部門(散文部門)に参加させていただきました。コロナ禍ということもあり、長時間の車移動。山がいつしかビルに変わり、ビルがいつしかみかん畑に変わったのを寝ぼけ眼で見たこと、とても印象に残っています。

分科会では作家の松村栄子先生による「お国言葉で語る」という活動を行いました。地域の方言で民話・童話を語るというもので、全国の高校生が集まるからこその活動でした。地域ごとに様々な言語表現があり、そこには言語によって形作られる世界があると改



めて気付かされました。そして、言葉のもつ広大な受容性、可能性について一端ではありますが感じることができました。

最終日には作家として多方面で活躍されている高橋源一郎先生による講演会がありました。内容はもちろん、口調や間の取り方まで、なにもかもがすくとんと落ちてくる感覚がありました。ああいう人になりたいと思う(ああいうのが才能だ)したら諦めるほかにないのだけれど、本当に魅力にあふれる方でした。講演の中で「書き続けることが特に印象に残ることができ、それが少しでも私の望むもの(よく定まっていなくても)に近づかせてくれたらいい」と心から思います。

今回の全国大会を始め、文芸新聞部での活動では、言語表現と向き合うことで普段の生活では得にくいものや様々な新しい挑戦の機会を私に



全国高文祭に参加して

美術部 三年 竹田 好花

和歌山県で開催された全国高文祭に参加しました。コロナ禍で活動が制限される中、5月上旬で作者同士が交流できる場を設けていただきました。全国の作品に対してコメントを送ることができ、例年よりもたくさんの方に感想を伝えられたと思います。また私も多くのコメントをいただきました。とても嬉しかったです。

当日は、全国の作品を直接、細部まで見るのができました。作品の魅力や、込められた作者の情熱を直に感じる事ができ、とてもよい刺激になりました。私は、今回の高文祭で作品を他者に評価されることの嬉しさを改



編集後記

色々な方に感謝

今年も様々な活動がコロナ禍ということで、中止や自粛など子どもたちには、中々気持ちの整理もつかない。大変な年であったと思います。この様な状況の中でも、テレビや新聞等で拝見した、八高生の頑張りが活躍を見るたびに、元気をもらった方も沢山いたのではないのでしょうか。この様な大変な時期に、PTA会報第七十七号を無事に発行できたのも、快く原稿の執筆に協力してくださった方々、編集作業に尽力いただいた先生方や広報委員の皆様、本当にありがとうございます。

早くこの様な状況が改善し、様々な活動が再開され、八高生の活躍の写真や記事が、もっと沢山掲載できることを願っています。最後になりますが、隔々まで八高PTA会報を読んでいた皆様、本当にありがとうございます。【広報委員長 田中 正隆】